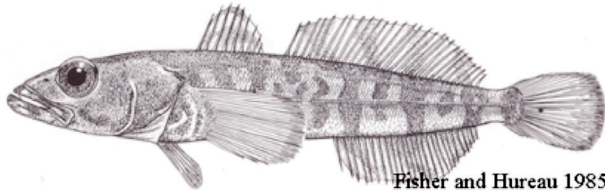


# マジェランアイナメ・ライギョダマシ 南極海

Patagonian Toothfish, *Dissostichus eleginoides* & Antarctic Toothfish, *Dissostichus mawsoni*



Fisher and Hureau 1985

マジェランアイナメ (Fisher and Hureau 1985)



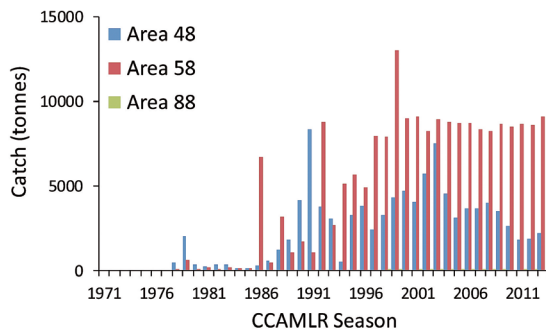
マジェランアイナメ漁獲物 (CCAMLR HP) © B. Watkins

## 管理・関係機関

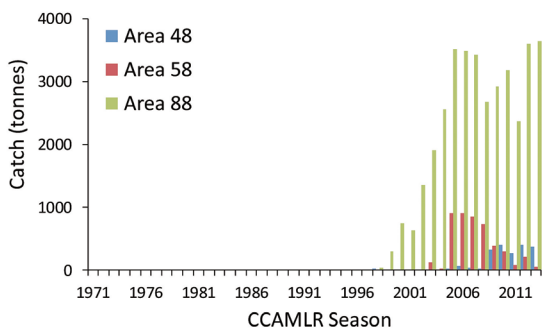
南極海洋生物資源保存委員会 (CCAMLR)

## 最近の動き

2012/13 漁期の CCAMLR 水域内のメロ類 (マジェランアイナメ及びライギョダマシ) の報告漁獲量は 15,330 トンと、前年 2011/12 年漁期 (14,697 トン) に比べ増加した。我が国の CCAMLR 水域における 2012/13 漁期の漁獲量は 241 トン (マジェランアイナメ 49 トン、ライギョダマシ 192 トン) と、前年漁期の 281 トン (マジェランアイナメ 33 トン、ライギョダマシ 248 トン) より減少した。



CCAMLR 水域におけるマジェランアイナメの漁獲量の海域別の年変化  
CCAMLR Season は CCAMLR で用いられている漁期の年度を示し、単位年度は 12 月 1 日～翌 11 月 30 日である。例えば、CCAMLR の 2014 年度 (もしくは 2013/14 年度) は 2013 年 12 月 1 日～2014 年 11 月 30 日の期間に相当する。



CCAMLR 水域におけるライギョダマシの漁獲量の海域別の年変化  
CCAMLR Season は CCAMLR で用いられている漁期の年度を示し、単位年度は 12 月 1 日～翌 11 月 30 日である。例えば、CCAMLR の 2014 年度 (もしくは 2013/14 年度) は 2013 年 12 月 1 日～2014 年 11 月 30 日の期間に相当する。

## 生物学的特性 (マジェランアイナメ)

- 寿命: 40 ~ 50 歳
- 成熟開始年齢: 6 ~ 9 歳
- 産卵期・産卵場: 6 ~ 9 月、南極周辺海域の陸棚斜面水域
- 索餌場: 南極周辺海域の陸棚斜面水域
- 食性: オキアミ類、魚類、いか類、甲殻類
- 捕食者: 海産哺乳類

## 利用・用途

冷凍切身、みそ漬けなどの加工品

## 漁業の特徴

本資源対象の漁業の始まる前、魚類対象のトロール漁業が 1970 年頃からサウスジョージア水域、ケルゲレン諸島水域で行われていた。その漁場は 1977/1978 漁期以降、サウスオークニー諸島水域の高緯度域へ拡大したが、1980 年代初期に急減した。その後、代替としてメロ類 (マジェランアイナメ及びライギョダマシ) を漁獲対象とした底はえ縄漁業がサウスジョージア水域、ケルゲレン諸島水域及び南極大陸周辺の陸棚域で始まった。

## 漁業資源の動向

2012/13 漁期の CCAMLR 水域内のメロ類の報告漁獲量は 15,330 (2011/12 年漁期 14,697) トンと、前年 2011/12 年漁期に比べやや増加した。これまで、本漁業資源に対しては、IUU (違法・無規制・未報告) 操業が資源状態に悪影響を及ぼしていることが強く懸念され、管理措置上にも大きな問題となっていた。そのため、CCAMLR は輸出入に係る規制強化等 IUU 操業に対し積極的な対策を講じてきており、IUU 操業は年々減少傾向にある。しかしながら、海域によっては依然として IUU 操業による大きな被害が続き、正規漁船の操業に深刻な影響を及ぼしている。

### 資源状態

CCAMLR 水域全体での資源量調査は行われていないが、本種の主な分布域が陸棚・陸棚斜面域であることから、生息海底深度面積と生物データの組合せで小海区ごとに1～2年ごとに資源評価が行われている。ただし、日本漁船が主に操業している新規・開発操業域や調査操業域（禁漁域）では十分な資源調査が行われていないため正確な値は不明である。現在、標識放流調査並びに耳石等生物データが収集されており、これらのデータをもとに、近い将来、より正確な資源評価が行われる予定である。

### 資源管理方策まとめ

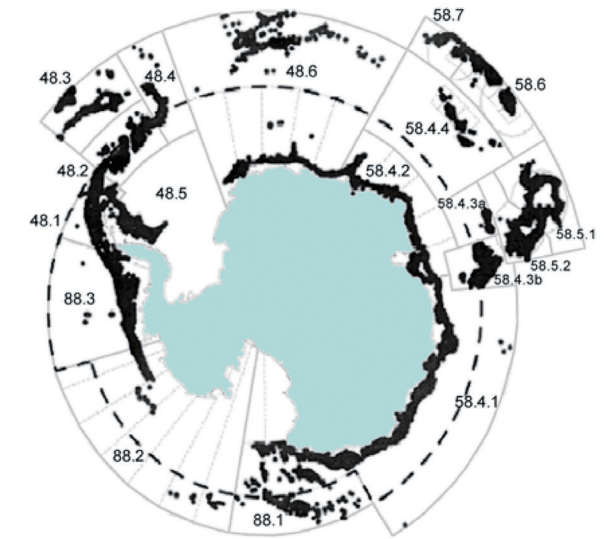
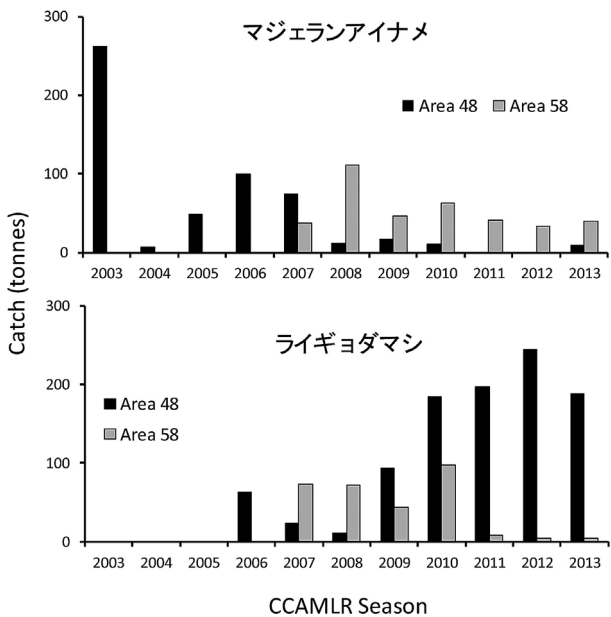
- CCAMLR が毎年の漁獲報告データに応じて、その都度、小海区ごとに漁獲制限量を算出。
- 漁獲制限の取り決めのない海区では禁漁措置。

### 管理方策

CCAMLR の科学委員会の魚類資源評価作業部会が、魚類の資源管理のための科学的検討を行っている。検討方法は海区ごとに異なり、漁獲量と CPUE の動向から判断する場合、標識放流調査から判断する場合及び資源動態モデルによるシミュレーションで判断する場合がある。その結果を受けて、CCAMLR が管理措置を決定する。なお、2014/15 年漁期の我が国の新規・開発漁業予定の小海区は5つあり、48.6 海区で 538 トン、58.4.1 海区で 724 トン、58.4.2 海区で 35 トン、58.4.3.a 海区で 32 トン、88.1 海区で 3,044 トンである。また、その他の新規・開発漁業区として 88.2 海区で 619 トンの漁獲枠が設定されている。禁漁区である 58.4.4 海区では漁獲枠 60 トンの調査漁業が認められている。なお、58.4.3b 海区では 2009/10 漁期以降調査操業に準じた厳しい保存措置のもとで操業を行ってきたが、標識再捕の成果が上がらないことなどから 2012/13 漁期以降、許容漁獲量は 0 トンに据え置かれている。

### マジェランアイナメ・ライギョダマシ（南極海）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位～中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量（最近5年間）	CCAMLR 水域 1.3～1.6 万トン 平均：1.5 万トン (2009～2013 年)
我が国の漁獲量（最近5年間）	CCAMLR 水域 1.3～1.6 万トン 平均：1.5 万トン (2009～2013 年)
最新の資源評価年	—
次回の資源評価年	—



メロ類の主棲息深度と漁獲枠設定の単位となる小海区（Subarea/division）影の部分は、両種の主棲息深度 500～1,800 m の陸棚斜面域。太破線は 2 種の区分線。北側域；マジェランアイナメ、南側域；ライギョダマシ（CCAMLR 保存管理措置）

我が国におけるメロ類の漁獲量の経年変化  
CCAMLR Season は CCAMLR で用いられている漁期の年度を示し、単位年度は 12 月 1 日～翌 11 月 30 日である。例えば、CCAMLR の 2014 年度（もしくは 2013/14 年度）は 2013 年 12 月 1 日～2014 年 11 月 30 日の期間に相当する。